



がんセンター



精神医療センター



循環器呼吸器病センター



こども医療センター



Kanagawa Prefectural Government

第1回 県立病院機能の あり方検討会

令和7年6月
健康医療局保健医療部
県立病院課

足柄上病院



本日の流れ

- 1 神奈川県立病院機構の概要
- 2 「県立病院機能のあり方検討会」の設置について
- 3 県立病院の現状と課題
- 4 検討を進める上での視点について

1 神奈川県立病院機構の概要

1 神奈川県立病院機構の概要

(1) 県と県立病院機構との関係

県

- 地方独立行政法人法に基づき、平成22年4月1日に病院機構を設立
- 県が病院機構に達成を期待する目標を明確にするため、5年間の中期目標を定め、その目標を達成するよう病院機構へ指示
- 事業年度ごとに、業務実績を評価

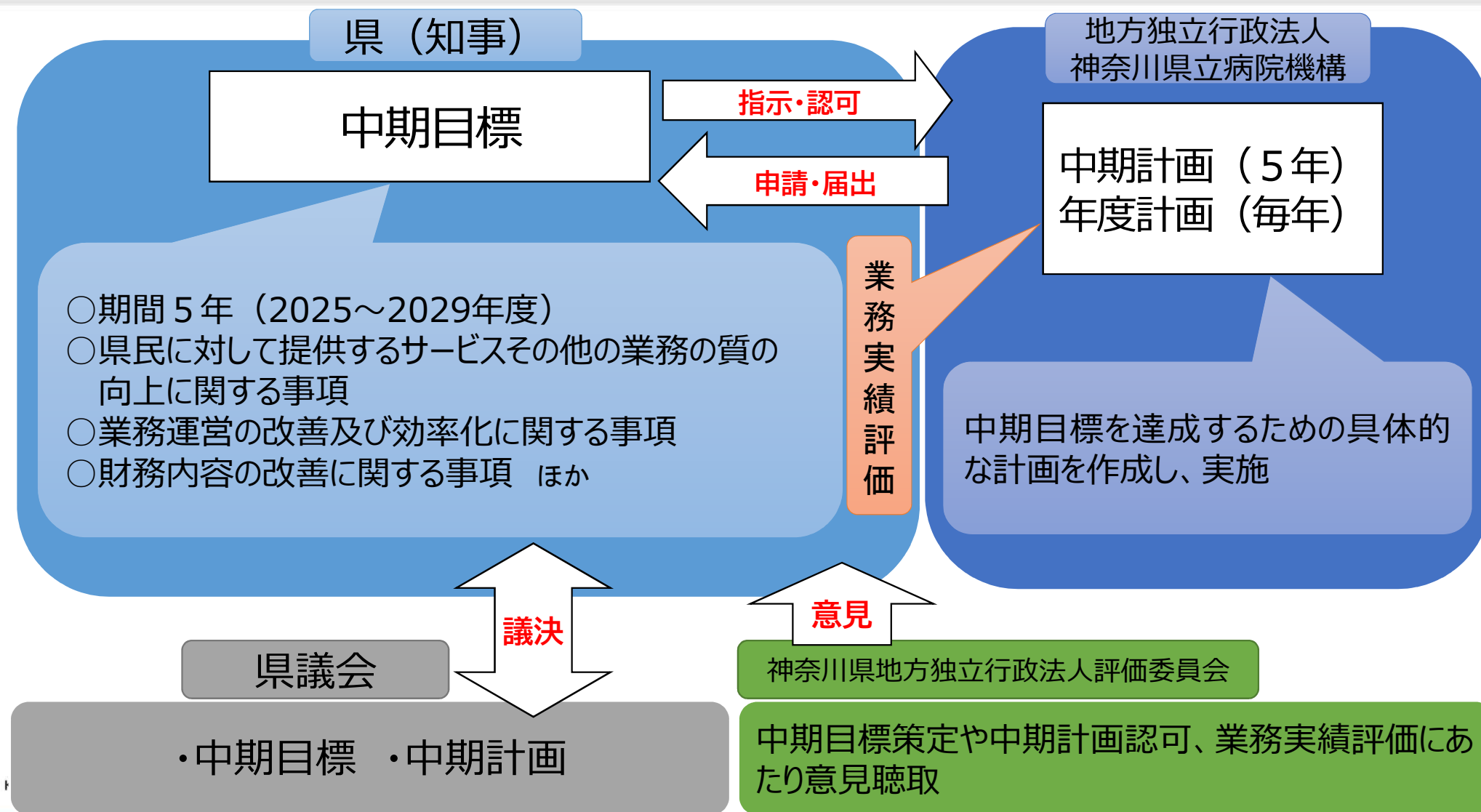
病院機構

- 中期目標を達成するための中期計画（5年間）及び年度計画（1年間）を定め事業を実施

※ 県議会：中期目標・中期計画の議決

➡ 令和6年度に第四期中期目標・中期計画（令和7年度～11年度）を策定

1 神奈川県立病院機構の概要



1 神奈川県立病院機構の概要

(2) 県立病院の役割

第四期中期目標

■これまでの役割

こども医療センター
精神医療センター
がんセンター
循環器呼吸器病センター

高度・専門医療を取り扱う県内の拠点病院として
地域の医療機関では対応が困難な患者への医療を提供

足柄上病院

県西地域の中核的な総合病院として
地域の二一ズを踏まえた総合診療などの医療を提供

■これからの役割

県内の医療機関のフロントランナーとしての役割も果たす必要

社会状況の変化に対応し、引き続き県立病院としての役割を担うとともに、
医療DXを推進し、病院間の連携による広域医療提供や大規模災害・感染症パンデミック等
におけるフラッグシップ機能などを担う

1 神奈川県立病院機構の概要

(3) 県立病院の目指す姿

第四期中期目標

各県立病院がそれぞれの機能を高めるだけでなく、県立病院間の連携を強め、
県立病院群としての機能強化を図っていく

① 県民に信頼される患者の安全確保と経営健全化

② 多様・複雑な併存疾患等への対応力の確保及びデジタル活用による広域の医療提供

③ 大規模災害や感染症パンデミック等におけるフラッグシップ機能の強化

④ 専門機能病院と地域医療提供病院それぞれの役割とサービス提供のあり方の検討

人口減少や少子高齢化の急速な進展に伴う医療需要の変化や、医療の高度化といった経営環境の急激な変化等を背景とする厳しい環境が続く中、今後、各病院が持続可能な運営をしていくため、10年程度先を見越して、病院機能のあり方について、再編等も視野に入れて検討する必要がある。

2 「県立病院機能のあり方検討会」の設置について

2 「県立病院機能のあり方検討会」の設置について

(1) 背景

本県のみならず、全国的に「急激な人口減少と少子高齢化」「医療機関経営不振」「病院医療従事者不足」といった課題が顕在化

課題 1

急激な人口減少と少子高齢化

- ・ 高齢化により、基礎疾患、合併症、生活環境（老老）に伴う複雑な医療需要が増大
➡ **（病院機構）専門に特化した4病院が主となる病院機構の体制では、多様・複雑な疾患への対応が困難**



課題 2

医療機関経営不振

- ・ 診療報酬額の抑制と人件費や材料費、システム関連費等の支出増大で収益性が低下
➡ **（病院機構）赤字経営が続き、繰越欠損金が増大**



課題 3

病院医療従事者不足

- ・ 諸条件良好施設・地域への偏在（自由選択性と働き方改革）
➡ **（病院機構）特に地方部にある足柄上病院において医師確保が困難**



2 「県立病院機能のあり方検討会」の設置について

(2) 検討の進め方

今後の**県立 5 病院のあり方**について、**検討会を設置し、抜本的に検討**したい

◆検討事項

- ① 県立病院が担うべき役割について
- ② 県立 5 病院の機能及び機能に応じた体制
各病院の機能の棚卸しと仕分け / 適正な病床機能
- ③ 県立病院全体の最適化と連携
適正な機能や体制の実現に向けた病院経営

(令和 7 年度)

「あり方検討会」
を設置して
報告書を
取りまとめ

施設の機能統合や
再編も含めて
抜本的に検討

2 「県立病院機能のあり方検討会」の設置について

(3) 検討会の目的

県立病院機構の5病院について、有識者等の意見を聴取し、県立病院としての役割を踏まえた今後のあり方を検討する。

(4) 検討会の構成

	分野	視点	委員
1	学識経験者	医療政策 病院経営 医師確保等	東京科学大学教授 伏見 清秀氏
2			千葉大学医学部附属病院 副病院長 井上 貴裕氏
3	医療関係者	地域連携	県医師会 理事 小松 幹一郎氏
4			県病院協会 会長 吉田 勝明氏
5			県看護協会 会長 本舘 教子氏

※ テーマに応じて地域の関係者（足柄上地域、横浜市）等の意見を伺う

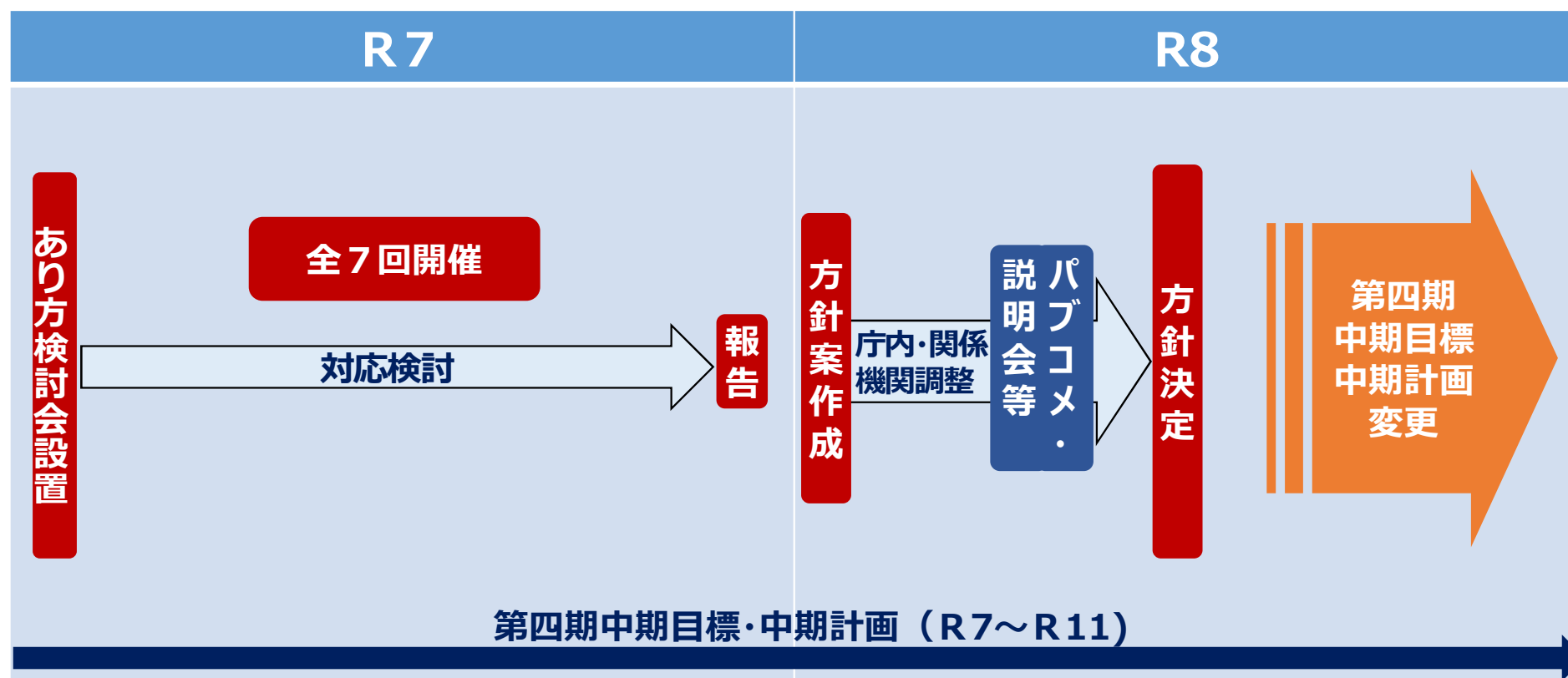
2 「県立病院機能のあり方検討会」の設置について

(5) 検討項目（予定）

	内容	日程
第1回	県立病院の現状と課題、検討を進める上での視点	令和7年6月30日
第2回	県立5病院の機能及び機能に応じた体制 ① (がんセンター、循環器呼吸器病センター)	令和7年8月
第3回	県立5病院の機能及び機能に応じた体制 ② (こども医療センター、精神医療センター)	令和7年9月
第4回	県立5病院の機能及び機能に応じた体制 ③ (足柄上病院)	令和7年10月
第5回	全体の最適化と連携 (適正な機能や体制の実現に向けた病院経営) ①	令和7年11月
第6回	全体の最適化と連携 (適正な機能や体制の実現に向けた病院経営) ②	令和8年1月
第7回	検討会報告書まとめ	令和8年3月

2 「県立病院機能のあり方検討会」の設置について

(参考) ロードマップ



3 県立病院の現状と課題

3 県立病院の現状と課題

(1) 各病院の配置



3 県立病院の現状と課題

(2) 沿革

平成22年4月	地方独立行政法人神奈川県立病院機構設立
平成24年8月	循環器呼吸器病センターに放射線治療棟を開棟
平成24年11月	精神医療センターに医療観察法病棟を開棟
平成25年11月	がんセンター新病院を開設
平成26年12月	精神医療センター新病院を開設
平成27年12月	がんセンターで重粒子線治療施設を開設
令和6年1月	足柄上病院の再整備事業着工（現在休止中）

3 県立病院の現状と課題

(3) 各病院の現状と課題

① 足柄上病院（足柄上郡松田町）

<基礎データ>

病床数	病床稼働率 (%)	外来患者数 (人)	総損益 (億円)	医業損益 (億円)
296 〔うち 休床32〕	↓ 54.4 (78.4)	↓ 68,143 (112,808)	↓ △16.4 (△7.7)	↓ △23.4 (△15.7)

※病床稼働率、外来患者数、総損益、医業損益はR 6年度の実績
(カッコ内はコロナ感染拡大前のR元年度実績)

<役割>

- ・ 県西地域の中核的総合病院
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ 災害拠点病院
- ・ 神奈川DMAT指定病院
- ・ 臨床研修指定病院
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 在宅療養後方支援病院

<主な課題>

- ・ 地域として不採算（黒字化が困難）
- ・ 低い病床稼働率
- ・ 医師不足 → 総合診療機能の低下
- ・ 再整備計画（2号館建替）の再検討

3 県立病院の現状と課題

(3) 各病院の現状と課題

② こども医療センター（横浜市南区）

<基礎データ>

病床数	病床稼働率 (%)	外来患者数 (人)	総損益 (億円)	医業損益 (億円)
430	↑ 79.4 (78.0)	↓ 161,955 (173,794)	↓ △10.9 (△1.8)	↓ △40.0 (△32.0)

※病床稼働率、外来患者数、総損益、医業損益はR 6年度の実績
(カッコ内はコロナ感染拡大前のR元年度実績)

<役割>

- ・福祉施設を併設した小児専門総合病院
- ・小児がん拠点病院
- ・小児三次救急を担う医療機関
- ・総合周産期母子医療センター
- ・アレルギー疾患医療拠点病院

<主な課題>

- ・医療安全体制の強化
- ・成人移行期医療が不十分
- ・G C Uや福祉施設の利用率が低い
- ・施設や設備の老朽化
- ・児童精神科の初診までの待機期間が長い

3 県立病院の現状と課題

(3) 各病院の現状と課題

③ 精神医療センター（横浜市港南区）

<基礎データ>

病床数	病床稼働率 (%)	外来患者数 (人)	総損益 (億円)	医業損益 (億円)
323	↓ 82.7 (91.6)	↓ 52,110 (59,046)	↑ 1.3 (0.5)	↑△16.5 (△16.8)

※病床稼働率、外来患者数、総損益、医業損益はR 6 年度の実績
(カッコ内はコロナ感染拡大前のR 元年度実績)

<役割>

- ・精神科中核病院
- ・精神科救急医療システムの基幹病院
- ・災害拠点精神科病院
- ・依存症治療拠点機関

<主な課題>

- ・身体合併症への対応が不十分
- ・地域移行の促進
- ・初診までの待機期間が長い
- ・児童精神科との連携

3 県立病院の現状と課題

(3) 各病院の現状と課題

④ がんセンター（横浜市旭区）

<基礎データ>

病床数	病床稼働率 (%)	外来患者数 (人)	総損益 (億円)	医業損益 (億円)
415	↓82.7 (90.3)	↑255,638 (249,349)	↓△3.8 (7.8)	↓△9.8 (△7.4)
		(重粒子) ↑690 (480)	(重粒子) ↓△2.2 (△1.0)	(重粒子) ↑△1.6 (△6.2)

※病床稼働率、外来患者数、総損益、医業損益はR 6年度の実績
(カッコ内はコロナ感染拡大前のR元年度実績)

※重粒子線は治療患者数

<役割>

- ・がん専門病院
- ・都道府県がん診療連携拠点病院
- ・がんゲノム医療拠点病院

<主な課題>

- ・併存疾患を抱える高齢者への対応が不十分
- ・重粒子線治療施設の利用促進

3 県立病院の現状と課題

(3) 各病院の現状と課題

⑤ 循環器呼吸器病センター（横浜市金沢区）

<基礎データ>

病床数	病床稼働率 (%)	外来患者数 (人)	総損益 (億円)	医業損益 (億円)
239 〔うち結核60〕	↓ 61.0 (78.7)	↓ 77,961 (98,370)	↓ △1.6 (2.2)	↓ △13.9 (△9.0)

※病床稼働率、外来患者数、総損益、医業損益はR 6年度の実績
(カッコ内はコロナ感染拡大前のR元年度実績)

<役割>

- ・循環器及び呼吸器領域の専門病院
- ・地域医療支援病院
- ・結核医療の提供

<主な課題>

- ・低い病床稼働率
- ・患者は減少傾向
- ・施設の老朽化
- ・難治性呼吸器疾患（間質性肺炎等）以外の患者の居住地が近隣に集中

3 県立病院の現状と課題

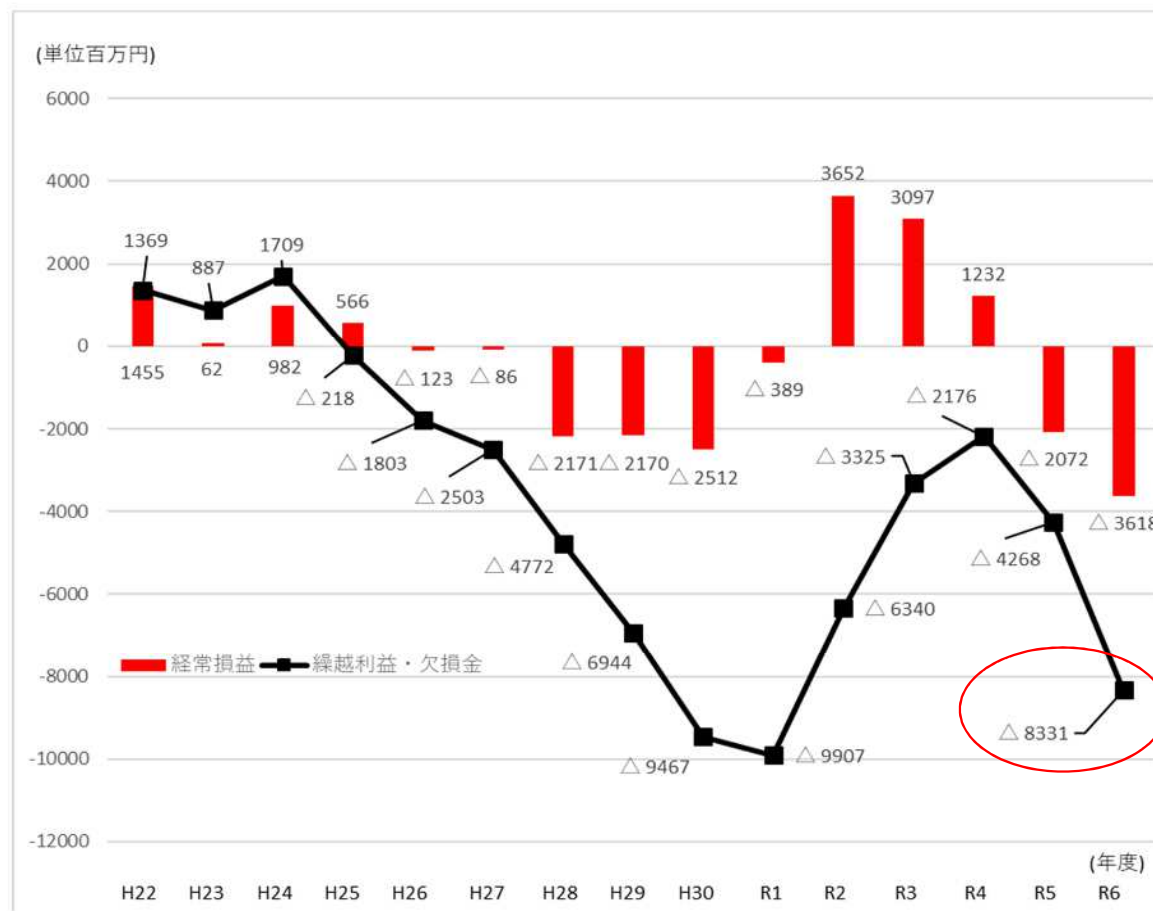
(4) 県立病院機構の経営状況

◆ 県立病院機構の経常損益、繰越利益・欠損金の推移

- 令和6年度は、単年度で
経常損益△36億円余り
総損益△40億円余り

※総損益は足柄上病院2号館除去工事費用等を含む

- 繰越欠損金としては、
83億円を超える規模



4 検討を進める上での視点について (ご意見をいただきたい事項)

4 検討を進める上での視点について

- 第2回以降、各県立病院の今後のあり方について **効率的に検討を進めるため**には、検討会として統一的な視点を整理しておく必要がある。
- 事務局は、**当該視点で**検討が進められるよう **データを収集し、各回において提示**する。

4 検討を進める上での視点について

①

各病院の担うべき役割と機能

→ 「政策医療」の担い手としての現在の役割や機能は適切か

②

県立5病院間の役割分担と連携

→ 県立病院がどのように役割を分担し、連携していくか

③

地域の医療機関との役割分担と連携

→ 地域とどのように役割を分担し、連携していくか

④

県内のフロントランナーとしての役割

→ 県立病院にどのような取組が求められるか

4 検討を進める上での視点について

検討に必要なデータ（想定）

各県立病院別又は診療科別の医療提供状況や経営状況等を把握できるデータ

<全県>

- 県内の二次保健医療圏別の医療需要の動向、将来推計
- 二次保健医療圏における各県立病院の疾患別シェア

<各県立病院別>

- 診療科または疾患別の患者数の推移（入院及び外来）
- 患者動向（年齢、在院日数、ルート（医療圏内外、紹介元等）等）
- 病棟ごとの病床稼働率
- 手術件数や放射線治療件数等の医療提供状況
- 入院・外来の単価、収益・費用等
- 地域連携の状況（紹介件数、逆紹介件数等）
- 医療従事者数（医療圏の人口当たりや診療科ごと）や医師偏在指標等
- 各施設の基本情報（築年数、敷地面積等）